

オプション教材は勉強に余裕があるときに取り組んでいただく教材です。

オプション教材クリ 読解マラソン集

クリ

読解問題のもとになる長文です。読解問題をやる人は、時間のあるときに読んでおきましょう。

読解問題は、清書の週で時間があまったときにやってください。時間がないときは、やらなくていいです。

読解問題は、選択式問題の解答のコツをつかむために行います。適当に全問やるのではなく、一問か二問でもいいですから確実に正解にするつもりでやってください。

読解問題の答えを作文用紙に書く場合は、問題の番号と答えがわかるように書いてください。書き方は自由です。読解問題の用紙は返却しませんが、選んだ番号と正解は「山のたより」に表示されます。

読解マラソンの問題のページから答えを送信すると、その場で採点結果が表示されます。（この場合、作文用紙に答えを書く必要はありません）

▼作文用紙に答えを書く場合（書き方は自由です。
作文用紙の余白などに書いても結構です）

▼読解マラソンのページから答えを送信する場合（この場合作文用紙に答えを書く必要はありません）
<http://www.mori7.net/marason/ki.php>

1.

3.

5.

2.

4.

クロソラスズメダイは、イトグサという藻をえさにしています。スズメダイはさんご礁にすみませんが、沖縄の琉球列島のクロソラスズメダイは、このさんご礁の中にたくさんイトグサを育てています。自分で自分のえさを育てているので、「自給自足」というわけです。では、クロソラスズメダイはどんなふうにイトグサを育てるのでしょうか。さんご礁の中にはイトグサ以外にもたくさん種類の藻が生息しています。クロソラスズメダイは、自分が食べるイトグサ以外の藻類が成長し始めると、ロでそれを抜き取ります。イトグサは、こうしたクロソラスズメダイの保護なしには、生存競争にやぶれて、その場所は、他の藻類に覆われてしまうのです。

クロソラスズメダイは、自分の育てているイトグサを食べてしまうニザダイや、時にはウツボのような肉食性の生き物をも追いはらい、自分の藻を大切に守ります。ですから、ライバルがいなくなったイトグサはぐんぐん大きくなれるわけです。イトグサは、「クロソラスズメダイさん、ありがとう。ウツボの思うつぽにならないくてよかったよ。おれいにぼくを食べてね」といつているようです。

クロソラスズメダイは一匹一匹がなわばりを持つ魚ですが、自分のなわばりの中にあるえさの藻だけを管理して、まるで芝生のようにしげらせています。

似た例で、アメリカ大陸に、キノコを育てるハキリアリがいます。自分の巣の中に葉っぱ運び込み、それを噛み砕いた中でキノコを育てるのです。ハキリアリは、はりきってキノコを育てるので、キノコはアリの巣の中で、ありがたいことだと思っていることでしょう。

言葉の森長文作成委員会（中）



33 32 31 30 29 28 27 26 25 24 23 22 21 20 19 18 17 16 15 14 13 12 11 10 09 08 07 06 05 04 03 02 01

ものの色は当たった光の中で、どの色を反射するかによって

決まります。「赤」のものに光が当たると、「赤」以外の色はもの

の表面に吸収されてしまいます。そして「赤」だけが反射して、そ

の光が見えるので赤く見えるというわけです。それ以外の光は、プ

リズムを通すと見るができます。美しい七色の虹のように、実際

は光にはいろいろな色が入っています。

この人間に見える色というのは、可視光線とよばれ、波長の長さで

決まっています。光の中で可視光線より波長の長いものを赤外線、

短いものを紫外線と呼んで、これらは目で見ることはできません。し

かし、昆虫の中には紫外線を見えるものも多く、モンシロチョウも

紫外線で相手を見て、オスカメスカ判断しているそうです。

ペンハムの独楽という実験があります。これは、ほんとうは無い色

が見えるというもので、目の錯覚のひとつです。円の下半分を黒くぬ

り、上半分は黒でしまのようなように描きます。これにしん

を通して独楽を作ります。回してみるとあらふしぎ。白と黒しかない

はずなのに、回し方の速さや向きによって「青」「緑」「赤」など

の色が見えるのです。これは、人間の目がついくつかのセンサーの

「感じ取る時間」に差があるため、黒から白に切り替わるときに、別

の色に見えてしまうというのが主な原因と言われています。この独楽

で見える色のことは「ペンハムカラー」と言います。

ベンハムとは人の名前、イギリスのおもちゃ製造業者でした。

十九世紀の終わり頃、実際にこのような独楽を作って発売したそうデ

す。

目の錯覚の例には次のようなものもあります。たくさん斜線のた

めに、ほんとうはまっすぐなはずの白い部分が、ゆがんだり斜めに見

このことは、人間が目と物を見ているのではなく、目を通して脳で

物を見ていることを示しています。

言葉の森長文作成委員会 (㊞)



犬は人気のあるペットとして常に上位にあげられます。人間が犬を飼いはじめたのは、一万年以上も前であるといわれています。犬の祖先はオオカミやジャッカルで、人間に飼われるようになる前は、群れをなして仲間と共に生活していました。群れの中にはリーダーがいて、他の犬たちはそのリーダーに従うのです。そしてリーダーを中心として、助け合いながら生活をしていきます。ペットとして人間と一緒に暮らすようになった今でも、その性質は残っていて、ともに暮らしている飼主をリーダーととらえ、飼主の家族を仲間だととらえます。知らない人がやってきたときに激しく吠えるのは、リーダーである飼主をはじめ、仲間だと思っている家族に危険を知らせるためのサインなのです。それはまるで、

「ぼくたちのなわばりに敵がやってきたよ。」

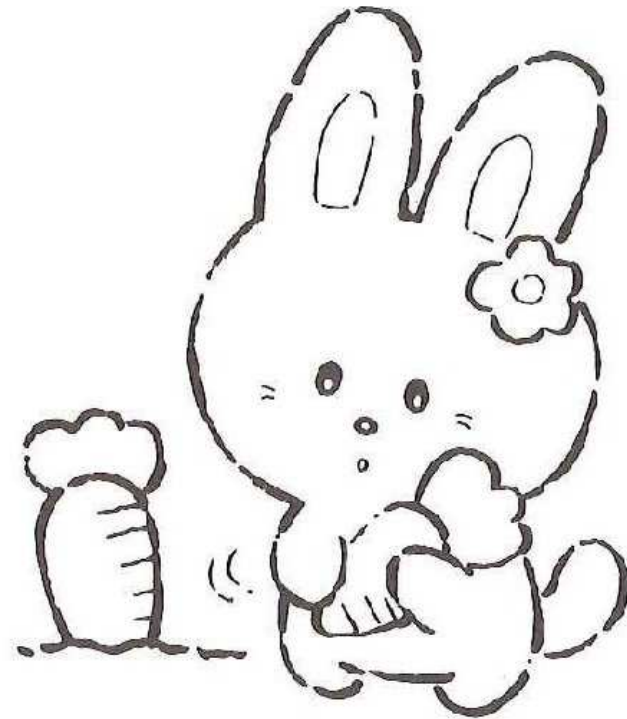
とうったえているようです。

猫もまた、人気のあるペットですが、犬が群れで生活していたのに対し、猫は単独で暮らしていました。ですから、飼われている家族とも少し距離を置き、自由気ままに暮らしているのです。猫が好きな人にとつては、そのような猫の性質がたまらない魅力になっているようです。

ところで、この犬と猫は、約六千万年前、森にすむミアキスという共通の祖先から分かれました。そのころの地球は環境の変動が激しかったので、ミアキスはどこで暮らすか大きな選択を迫られました。草原に出ていったミアキスは犬となり、森に残ったミアキスは猫となりました。

今、犬は「ワンワン」、猫は「ニャーニャー」と鳴きますから、ミアキスは「ニャワンニャワン」とでも鳴いていたのでしょうか。ミアキスに聞いてみたら、「そんなにやわけないよ」と言うかもしれません。

言葉の森長文作成委員会 (E)



ユーモラスな表情がかわいらしいドジョウは、どろの中がだいすきで、池や田んぼなどのどろの中をすみかにしています。稲作をもとに生きてきた日本人にはたいへんなじみのある魚で、どんぐりころころなどの身近な童謡にも歌われています。

ドジョウの顔をおもしろく見せているのは、口元にはえた十本のひげです。このひげは、おいをかいだり食べ物をさがしたりするためにあるもので、生きるためには欠かせない器官なのです。

おもしろいのは表情だけではありません。ドジョウは人間と同じようにおならをします。

魚はえらを使って体に酸素を取り込みますが、ドジョウはえらばかりでなく、腸からも酸素を取り入れています。ドジョウが、まるで水の外の様子をうかがうように、ひよつこりと水面に顔をのぞかせることがあります。それは空気を吸うためなのです。そして、腸の中にのこった空気は、おならとして排出します。ですから、魚なにおならがでるといってわけです。

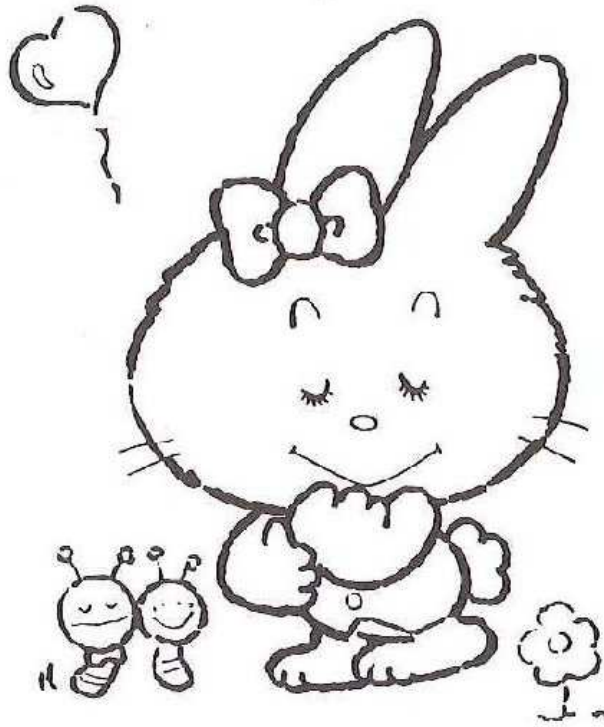
では、なぜドジョウが腸で呼吸するのでしょうか。ドジョウは、水の底にある泥を飲み込んでその中にあるエサを食べ、残りの泥のかすをえらから出して暮らしています。そのために、ほかの魚がするようなエラ呼吸が十分にできないので、腸を使って呼吸をするという調子がよいのです。

「本当ですか。ドジョウさん。」
「ちようです。」

言葉の森長文作成委員会 (E)



33 32 31 30 29 28 27 26 25 24 23 22 21 20 19 18 17 16 15 14 13 12 11 10 09 08 07 06 05 04 03 02 01



魚の顔にはえらがあります。魚が水の中で呼吸ができるのは、このえらのおかげです。

人間は肺を使って体の中に酸素を取り込みます。息を吸い込むときに酸素を取り入れ、吐くときに二酸化炭素を捨てています。これを肺呼吸と呼びます。それに対して魚はえらを使います。これをえら呼吸と呼びます。

水の中にはたくさん酸素がとけていますが、目で見えることはできません。砂場で使うふるいがあります、ふるいをえらだと想像してみます。そして、石は酸素、砂粒は水です。砂場の砂をふるいにかけて、ふるいの上には石だけがのこって砂粒はサラサラとこぼれ落ちます。魚は口から水を飲み込み、えらから吐き出していますが、えらというふるいで酸素だけを体の中に取り込むのです。えらが酸素を選んでるわけです。

しかし、えらが取り込める酸素は、水の中にとけているものだけです。空気の中からは取り込めません。ですから、魚は水の外では呼吸ができません。

水の中の酸素が足りなくなると、魚が水面に出て口をばくばくさせることがあります。これは、空気を吸っているのではなく、水面近くの水に空気を混ぜて吸っているのです。

人間も、お母さんのお腹の中にいる一ヶ月目のころにエラのようなものがあります。これは、昔、人間が水の中にいる生物だったころの名残りだと言われています。

言葉の森長文作成委員会 (E)



33 32 31 30 29 28 27 26 25 24 23 22 21 20 19 18 17 16 15 14 13 12 11 10 09 08 07 06 05 04 03 02 01

雨が落下するスピードは雨粒の大きさによって変化します。

霧雨とよばれる霧のように小さな雨粒の直径は、〇・五ミリメートル以下です。この大きさを雨のスピードは、秒速二メートルです。時速にするとおよそ七キロメートルです。

ごく普通の雨は、直径二ミリメートルくらいだといわれています。この大きさでは秒速七メートルになります。時速にすると、およそ二十五キロメートルで、気持ちよく自転車をこいでいるくらいのスピードです。

体に当たると痛いと感じるほどの大粒の雨、たとえば夏の夕立などの雨になると、雨粒の直径は五ミリメートル以上にもなります。この大粒の雨では、秒速は十メートル。時速では三十六キロメートルになるのです。

雨に比べるとハラハラと踊るように舞い降りてくる雪は、もつとゆっくり落ちてきます。雪も、雨と同様に様々な大きさがあります。が、だいたい秒速で五十センチから一・五メートルです。

雷とともにふることが多いものに電がありますが、この電が驚くべきスピードでふってくるのです。直径五センチの電で秒速三十メートル以上、時速にして計算すると時速一〇八キロメートル以上ということです。これは高速道路を走る自動車のスピードぐらいですから、車のボンネットがへこんだり、農作物に被害をもたらしたりすることもあるのです。電の標的になったらたまりません。

雨粒が落ちてくるときは、細長い形でも丸い形でもありません。あんパンやメロンパンのように、上が丸くて下が平らな形です。しかし、あまり速く落ちてくるので、人間の目には雨が線のような形で降っているように見えるのです。

「雨が降ろうが槍が降ろうか」というのは、「どんなときでも」という意味の言葉ですが、本当に槍が降ってきたらどのくらいのスピードになるのでしょうか。そんな実験はあまりやりたくありませんね。言葉の森長文作成委員会（E）



33 32 31 30 29 28 27 26 25 24 23 22 21 20 19 18 17 16 15 14 13 12 11 10 09 08 07 06 05 04 03 02 01

66 65 64 63 62 61 60 59 58 57 56 55 54 53 52 51 50 49 48 47 46 45 44 43 42 41 40 39 38 37 36 35 34

夜空を明るく照らす丸い月。昔から、月にはウサギがいて、おもちをついていると言われています。確かに、月の模様をよく見ると、杵を持ったウサギがおもちをついているように見えます。しかし、月に住んでいるのはウサギだけではないようです。北ヨーロッパでは、月の模様を、本を読むおばあさんや水を運ぶ男女に重ね合わせています。さらに、南ヨーロッパでは、大きなはさみを持ったカニ、東ヨーロッパでは横向きの女性、アラビアではほえているライオン、カナダではバケツを運ぶ少女など、同じ模様でも国によってとらえ方はさまざまです。

では、どうして月には模様があるのでしょうか。それは、月にはクレーターや海などがあり、地球から見ると、クレーターは白っぽく、海は黒っぽく見えるためです。この海の部分がウサギになったり、カニになったり、ライオンになったりするのは、海と言っても、地球の海のように水があるわけではなく、濃い色の玄武岩でおおわれた平原となっています。月の海は、月の地表の十六パーセントを占めます。そのほとんどが月の表と呼ばれる地球を向いている側にあります。ですから、地球に住む私たちは、その模様を楽しむことができるのです。まるで、月がこちらを向いて、私たちに付きあってくれーたーかのようなのです。

月は地球よりも小さいために重力も小さく、大気をつなぎとめておくことができません。地球に落ちてくる隕石のほとんどは、地球の大気との摩擦で燃え尽きてしまいますが、月には大気がないので隕石がそのままぶつかります。隕石がぶつかった跡も、月の模様となっています。

ガリレオは、初めて望遠鏡で月のクレーターを見たとき、「青眼をちりばめたクジャクの尾のようだ」と言ったそうです。望遠鏡で見ると、肉眼で見るとはまた違った感動があります。望遠鏡

のなかった昔の人たちが月を見て想像をふくらませたように、ときには、夜空を見上げて自由に空想を広げてみるのもおもしろいものです。

言葉の森長文作成委員会（一）



奈津は幼いころからとても利発で、本を読むことや文を書くことが大好きな女の子でした。ひとたび本を読み始めると、友達と遊びに誘っても全く応じません。なぜなら、友達と遊ぶより本を読むほうがずっと楽しいのです。一冊の本を読み終わると、もう一度はじめから何度も繰り返し味わうように読むのです。まるで本の世界に入り込んでしまったかのように熱中してしまうのです。

そんな奈津は、学校でも大変熱心に勉強に取り組みました。あまりに熱心なので、先生も驚いてしまうほどです。学ぶことが楽しくて仕方がないので、砂が水を吸うように勉強を理解していくのですから、成績も大変優秀でした。

ところがある日、思いがけないことが起こりました。女の子は家の手伝いや針仕事をしたほうが役に立つのだから、学校はやめるようにと、お母さんが言うのです。

そのころは、学校へ通うことは恵まれた家庭の子だけが持つ特権でした。普通の家庭では、家計の足しにするために働くことが、学校で勉強することよりも優先されていました。東京に限ってみても、女の子の半数以上が小学校に通えなかったのです。学校へ行けない子たちは、家でお母さんの手伝いをしたり、小さな弟や妹の世話をしていたりました。

奈津は、その時代の女の子たちと同じように、学校をやめました。しかし、勉強に対する熱い思いは一向に冷めません。冷めるどころか、ますます大きく、強くなってくるのでした。本が読みたくてたまらない奈津は、こっそりと蔵に入り込み、暗がりの中、小窓から差し込む光をたよりに、本を読みふけるようになりました。今から百二十年ほど前の明治時代の話です。奈津はのちに樋口一葉という名前で作家になり、「たけくらべ」「にぎりえ」といった名作を残しました。

言葉の森長文作成委員会 (E)



高いところから飛び降りるとき、地面に着地する瞬間に、ひざを曲げてやわらかく地面に着くようにします。もし、ひざをまっすぐに伸ばしたまま着地をしたら、ひざを痛めてしまいます。同じ高さから飛び降りているのに、どうして衝撃が違うのでしょうか。

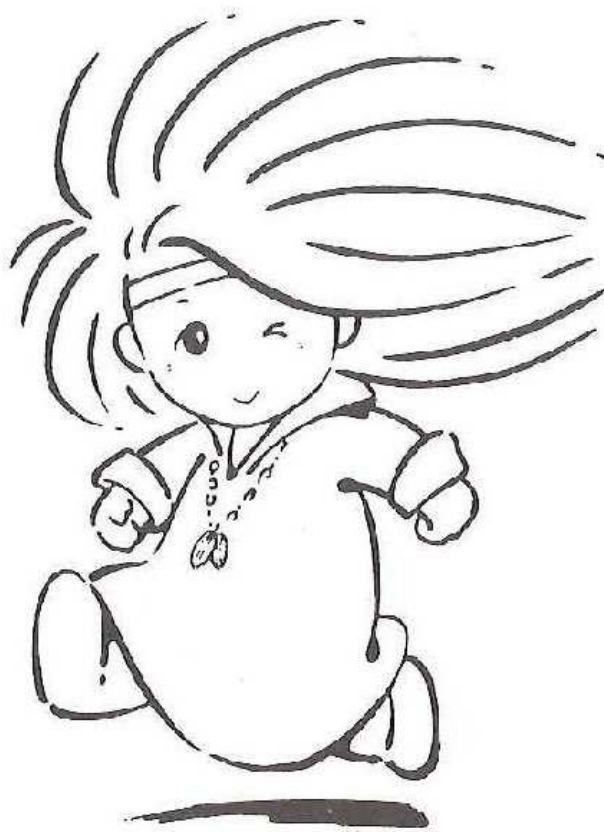
その秘密は、力というものの性質にあります。力は、重さと速さをかけたもので、「力」＝「重さ」×「速さ」ということになります。例えば、あなたが走っていったら、おすもうさんとぶつかるのと、一年生のけんちゃんやぶつかるのと、どちらが衝撃が強いでしょうか。おすもうさんの方が重いので、あなたははねとばされてしまうでしょう。ただし、一年生のけんちゃんやあなたが実はゾウの一年生だったとしたら、あなたはけんちゃんにもはねとばされてしまうかもしれません。このように、重いものは大きな力を持っているのです。

では、速さはどうでしょう。野球をしているとき、バットを思いっきり振ってうまく当たったのでホームランになったとします。同じ場で、バットをスローモーション撮影のようにゆっくり振っていたらどうでしょう。どんなにうまく当たっても、ゴロにしかありません。同じ重さでも、スピードを出しているときの方が力があるのです。

着地するときにはひざを曲げるのは、ちょうどこのスローモーション撮影をしていることと同じです。足の裏が地面に着く瞬間が、ほんの少しゆっくりになるのです。その差は例えば、〇・一秒で着地するところが〇・二秒で着地することになっただけかもしれません。しかし、それでも力は二分の一に減ってしまうのです。

この原理はいろいろなところに応用できます。けん玉をするとき、玉をお皿に乗せる瞬間にちよつとひざを曲げます。すると、玉がお皿に着地する時間がほんの少しゆっくりになるので、玉はとても入れやすくなります。こんなふうにして、玉がうまく入るようになったらたまりませんね。

言葉の森長文作成委員会 (M)



33 32 31 30 29 28 27 26 25 24 23 22 21 20 19 18 17 16 15 14 13 12 11 10 09 08 07 06 05 04 03 02 01

スフィンクスというのは、エジプトやギリシア、メソポタミアの神話に登場する、人間の顔を持ち、ライオンの胴体を持つという怪物です。エジプトのスフィンクスは、あごひげを生やした王様の顔をしていて、王様や神様を守るとされています。メソポタミアのスフィンクスは、顔は女性で、驚の翼を持っています。ギリシアのスフィンクスも、顔は美しい女性、脚と尾は獅子で、翼は驚となつて

います。スフィンクスは、たいへん知恵があり、なぞなぞやゲームが大好きです。神話によると、王の息子オディプスは、スフィンクスがテバ

イという町で通るものになぞなぞを出して、解けない者を食べるとい

う話を聞きました。オディプスが行ってみると、スフィンクスは次のような問題を出しました。

「朝には四本足、昼には二本足、夜には三本足で歩くものは何か。その生き物はすべての生き物の中で、いちばん姿を変えるものである」

それまでも、多くの人たちが挑戦しましたが、誰もこの謎を

解くことはできませんでした。しかし、オディプスは、スフィンクスにこう言いました。

「答えは人間だ。なぜかと言うと、赤ん坊の頃はハイハイで四つ足、大人になると二本足で歩き、年をとると杖をつくので三本足になるからだ。」

謎を解かれたスフィンクスは海に身を投げてしまいました。

人間はこのように、一生のうちにその姿を何度も変えます。姿だ

けでなく、脳の働きや感情なども、成長とともに変化します。これ

は他の動物よりも、脳をはじめとした体のしくみが複雑なせい

です。スフィンクスは、このなぞなぞを通じて、ほんとうは何を人間に

問うていたのでしょうか。今となつては知るよしもありません。

では、「朝には八本足、昼には七本足、夜には六本足の生き物」は何でしょうか。答えは、お腹のすいたタコが、昼に自分の足を一本食べ、夜にもう一本食べてしまったところです。

言葉の森長文作成委員会（㊟）



宮崎県にある幸島は小さな無人島です。この島には百匹余りの猿が生息しています。ある日のこと、イネという名の若いメス猿が川の水でイモを洗って食べました。すると、ほかの猿たちも次々とイモを洗って食べるようになりました。これまでは、砂などのよごれがついたイモをそのまま食べていた猿たちは、「イネのまねをして食べるとおいしいね。」と思ったことでした。しばらくして、イネは、川の水ではなく海の水でイモを洗うことを思いつきます。海の水で洗うと、塩味がついてもおもしろいくなるのです。それを見ていたほかの猿たちも、イモを海水で洗うのはいいものだ、と、イネと同じように海水でイモを洗うようになりました。

幸島の猿たちがみなイモを洗って食べるようになると、不思議なことに、大分県高崎山の猿たちもイモを洗い始めました。高崎山の猿ばかりではありません。遠く離れた他の土地や島にすむ猿たちもイモを洗って食べるようになったのです。もちろん、これらの猿たちは、幸島の猿たちがイモを洗うところを実際に見たわけではありません。しかし、いろいろな場所にすむ猿たちが申し合わせたかのようにイモを洗い始めたのです。これは、イモを洗う猿が一定の数に達すると、その行動が距離をこえて、ほかの集団にも伝染したためではないかと言われています。

これと似た現象は、人間社会にもあります。何か新しい発明をした人がいると、ちやうど同じころ世界のほかの場所でも同じ発明をしている人がいたということがよくあります。

言葉の森長文作成委員会 (V)



33 32 31 30 29 28 27 26 25 24 23 22 21 20 19 18 17 16 15 14 13 12 11 10 09 08 07 06 05 04 03 02 01



「いちばん貧しい人に仕えるため、町に出て行こう。」
 何不自由ない生活を送っていたマザー・テレサが、そう決心して
 修道院をあとにしたとき、持っていたお金はわずか五ルピーのみで
 した。今の日本のお金にしてみると、およそ百五十円です。たったこ
 れだけのお金でいったい何ができるといえるのでしょうか。しかし、マ
 ザーはあきらめません。神に与えられた自分の使命を果たすために
 も、あきらめるわけにはいかないのです。
 カルカッタの町には、多くの子供たちが表情もなく座り込んでい
 ました。学校へ通うお金もなく、食べるものも満足になく、ただじつ
 と座り込んでいるのです。
 教育こそが貧しさから抜け出す鍵になると直感したマザーは、す
 ぐさま子供たちを集めて青空教室を開きました。もちろん机もいす
 もありません。地面を黒板代わりにし、読み書きの基礎から指導して
 いきました。
 その噂はまたたく間に広まり、たくさんの子供たちがつめかける
 ようになりました。すると、マザーの活動に賛同し手助けをしてくれ
 る強力な協力者が次々と現われました。
 たった五ルピーしか持たないマザーが、その活動を大きく広げて
 いったのは、こうした人々の愛によるところが大きいのです。
 多くの心ある人々に支えられ、マザーなき現在も、マザーの活動
 はカルカッタの町にしつかりと根づいています。
 私たちはみな、愛を持っています。ただ、十分に人に与える方法
 がわからないだけなのかもしれません。
 「いったい、いつ、まずしい人々の貧困はやむのですか。」
 そうたずねられたマザーは、
 「あなたと私が分かち合いはじめたときに。」
 と答えました。

言葉の森長文作成委員会 (E)



33 32 31 30 29 28 27 26 25 24 23 22 21 20 19 18 17 16 15 14 13 12 11 10 09 08 07 06 05 04 03 02 01

読解問題 10月4週分

問1 読解マラソン集 1番「クロソラスズメダイは」を読んで次の問題に答えましょう。

- 正しいものを選び、番号の数字を書きなさい。
- ▼1 クロソラスズメダイは、イトグサしか生えないような場所に**くら**している ▼2 クロソラスズメダイは、イトグサが**せいちょう**し始めると、口でそれを**はき**取る ▼3 クロソラスズメダイは、イトグサ以外のものを**は**いて、イトグサを育てる ▼4 イトグサは、クロソラスズメダイのいないところでもたくましく**せいちょう**する

問2 読解マラソン集 1番「クロソラスズメダイは」を読んで次の問題に答えましょう。

- 正しいものを選び、番号の数字を書きなさい。
- ▼1 クロソラスズメダイは、自分のなわばりの中にあるイトグサを**かんり**している ▼2 クロソラスズメダイは、自分のなわばりを広げるためによくけんかをする ▼3 クロソラスズメダイは、みんなで**きょうりょく**してイトグサを育てている ▼4 クロソラスズメダイは、陸上ではキノコを育てている

問3 読解マラソン集 2番「ものの色は」を読んで次の問題に答えましょう。

- 正しいものを選び、番号の数字を書きなさい。
- ▼1 赤いものに光が当たると、赤い色が吸収されて赤く見える ▼2 赤いものは、光がなくても赤く見える ▼3 赤いものは、赤い光しか当たっていないので赤く見える ▼4 赤いものに光が当たると、赤い色が反射して赤く見える

問4 読解マラソン集 2番「ものの色は」を読んで次の問題に答えましょう。

- 正しいものを選び、番号の数字を書きなさい。
- ▼1 暗いところでよく見ると、人間にも赤外線が見える ▼2 昆虫の中には、人間に見えない光が見えるものもある ▼3 紫外線の中には、人間が見えるものもある ▼4 モンシロチョウは、赤外線で見え

問5 読解マラソン集 3番「犬は人気のあるペットとして」を読んで次の問題に答えましょう。

- 正しいものを選び、番号の数字を書きなさい。
- ▼1 犬の仲間のリーダーは、人間が決めてきた ▼2 犬は、人間に飼われる前は、集団で暮らしていた ▼3 人間に飼われるようになった犬は、自分がリーダーだと思ったようになった ▼4 オオカミやジャッカル

問6 読解マラソン集 3番「犬は人気のあるペットとして」を読んで次の問題に答えましょう。

- 正しいものを選び、番号の数字を書きなさい。
- ▼1 猫は、昔、犬のように集団で暮らしていた ▼2 ミアキスは、体の半分为犬で、もう半分为猫という生き物だった ▼3 犬と猫は、昔、共通の祖先から分かれた ▼4 アフリカの奥地には、今でもミアキスがすんでいる

問7 読解マラソン集 4番「ユーモラスな表情が」を読んで次の問題に答えましょう。

- 正しいものを選び、番号の数字を書きなさい。
- ▼1 ドジョウのひげは、顔をおもしろく見せるためにある ▼2 ドジョウは、鼻でにおいをかぎ、ひげで食べ物をさがす ▼3 ドジョウのひげを見ると、そのドジョウの年齢がわかる ▼4 ドジョウのひげは、ドジョウの生活に欠かせない

問8 読解マラソン集 4番「ユーモラスな表情が」を読んで次の問題に答えましょう。

- 正しいものを選び、番号の数字を書きなさい。
- ▼1 ドジョウは、えらではなく、腸で酸素を取り入れる ▼2 ドジョウは、泥を食べるので、おならがよく出る ▼3 ドジョウが水面に顔をのぞかせるのは、空気を吸うためである ▼4 ドジョウは、泥を消化する力がある

読解問題 11月4週分

問1 読解マラソン 集 5 番「魚の顔にはえらが」を読んで次の問題に答えましょう。

- 正しいものを選び、番号の数字を書きなさい。
- ▼1 魚が呼吸できるのは、えらのおかげである ▼2 人間にも、えらを使って呼吸する人がある ▼3 水の中の酸素は、よく注意すると見ることができる ▼4 魚は、えらから水を飲み込み吐き出している

問2 読解マラソン 集 5 番「魚の顔にはえらが」を読んで次の問題に答えましょう。

- 正しいものを選び、番号の数字を書きなさい。
- ▼1 魚のえらは、空気中から酸素を取り込むことができる ▼2 魚は、水の外でも少しは呼吸ができる ▼3 魚は、水中の酸素が足りなくなると、水面近くの水に空気をまぜて吸う ▼4 水中の酸素が足りなくなると、魚はジャンプして空気を吸う

問3 読解マラソン 集 6 番「雨が落下するスピードは」を読んで次の問題に答えましょう。

- 正しいものを選び、番号の数字を書きなさい。
- ▼1 霧雨は、普通の雨よりも速く落ちてくる ▼2 普通の雨は、自動車が走るぐらいのスピードで落ちてくる ▼3 体に当たると痛いと感じる雨は、雨粒が小さく重い ▼4 雪も、雨と同じように様々な大きさがある

問4 読解マラソン 集 6 番「雨が落下するスピードは」を読んで次の問題に答えましょう。

- 正しいものを選び、番号の数字を書きなさい。
- ▼1 雹は、高速道路で降ることが多い ▼2 雨粒の形は、まん丸ではない ▼3 雨粒は、線のような形で落ちてくる ▼4 雨粒は、上が平らで下が丸くなっている

問5 読解マラソン 集 7 番「夜空を明るく照らす」を読んで次の問題に答えましょう。

- 正しいものを選び、番号の数字を書きなさい。
- ▼1 ヨーロッパでも、月にはウサギがいると見られている ▼2 月の海には、水はない ▼3 月の海は、地球から見ると白っぽく見える ▼4 月の海は、月の表にも裏にも同じように広がっている

問6 読解マラソン 集 7 番「夜空を明るく照らす」を読んで次の問題に答えましょう。

- ▼1 月は、地球よりも重力が大きい ▼2 月の大気は、地球よりも濃い ▼3 月に落ちる隕石は、ほとんどが月の大気との摩擦で燃え尽きる ▼4 隕石がぶつかったあとは、月の模様となっている

問7 読解マラソン 集 8 番「奈津は幼いころから」を読んで次の問題に答えましょう。

- 正しいものを選び、番号の数字を書きなさい。
- ▼1 奈津は、とても利発で、本を読まないのに文を書くことが好きだった ▼2 奈津は、友達と一緒に本を読んで遊んだ ▼3 奈津は、勉強が楽しくて仕方がなかった ▼4 奈津は、本ばかりを読んで勉強をあまりしなかった

問8 読解マラソン 集 8 番「奈津は幼いころから」を読んで次の問題に答えましょう。

- 正しいものを選び、番号の数字を書きなさい。
- ▼1 そのころの学校は、頭のいい子しか行けなかった ▼2 東京では、ほとんどの子が小学校に行けたが、地方ではそうではなかった ▼3 奈津は、ときどきこっそり学校に行って本を読んだ ▼4 奈津は、やがて作家になった

読解問題 12月4週分

問1 読解マラソン 集 9番「高いところから」を読んで次の問題に答えましょう。

- 正しいものを選び、番号の数字を書きなさい。
- ▼1 高いところから飛び降りるとき、ひざをまっすぐに伸ばすと着地しやすい ▼2 同じ高さから飛び降りると、着地の姿勢には関係なく衝撃は同じだ ▼3 カとは、重さと速さを足したものだ ▼4 軽いものにぶつかるよりも重いものにぶつかった方が衝撃は大きい

問2 読解マラソン 集 9番「高いところから」を読んで次の問題に答えましょう。

- 正しいものを選び、番号の数字を書きなさい。
- ▼1 スローモーションでバットを振ってもホームランは打てる ▼2 同じ重さなら、スピードを出しているときの方が力はある ▼3 着地するときにはひざを曲げると、足の裏が地面に着く瞬間が早くなる ▼4 けん玉をするとき、玉をお皿に載せる瞬間にちょっとひざを伸ばすといよい

問3 読解マラソン 集 10番「スフィンクスというのは」を読んで次の問題に答えましょう。

- 正しいものを選び、番号の数字を書きなさい。
- ▼1 スフィンクスというのは、人間の顔をもちライオンの胴体を持つという怪物だ ▼2 エジプトのスフィンクスは、あごひげを生やしたライオンの顔をしている ▼3 メソポタミアのスフィンクスは、顔が鷲で翼を持っている ▼4 ギリシアのスフィンクスは、顔は美しい女性で、脚と尾はトラになっている

問4 読解マラソン 集 10番「スフィンクスというのは」を読んで次の問題に答えましょう。

- 正しいものを選び、番号の数字を書きなさい。
- ▼1 オディプスは、大勢の人たちの協力ですフィンクスを倒した ▼2 謎を解かれたスフィンクスは、オディプスの家来になった ▼3 朝に四本足、昼に二本足、夜に三本足で歩くものは人間だった ▼4 人間は、一生、姿や形を変えない

問5 読解マラソン 集 11番「宮崎県にある幸島は」を読んで次の問題に答えましょう。

- 正しいものを選び、番号の数字を書きなさい。
- ▼1 幸島は、人の住んでいない島だった ▼2 この島には、猿の動物園があった ▼3 イネは、賢いおばあさんの猿だった ▼4 イネは、イモを焼いて食べるようになった

問6 読解マラソン 集 11番「宮崎県にある幸島は」を読んで次の問題に答えましょう。

- ▼1 ある島の猿がイモを洗った話 がテレビに出ると、他の島の猿もイモを洗い出した ▼2 猿には、もともとイモを洗う習性があった ▼3 猿たちは、イモを洗って食べることを申し合わせた ▼4 人間の社会でも、新しい発明が同じ時期に行われることがある

問7 読解マラソン 集 12番「いちばん貧しい人に」を読んで次の問題に答えましょう。

- 正しいものを選び、番号の数字を書きなさい。
- ▼1 マザー・テレサは、子供のころ貧しい生活を送っていたので、お金をわずかしか持っていなかった ▼2 マザー・テレサは、貧しい人を助けるために、修道院から町に出ていった ▼3 マザー・テレサは、カルカットで商売を始めた ▼4 マザー・テレサは、カルカットの学校で先生になった

問8 読解マラソン 集 12番「いちばん貧しい人に」を読んで次の問題に答えましょう。

- 正しいものを選び、番号の数字を書きなさい。
- ▼1 マザー・テレサの活動を援助してくれる人はいなかった ▼2 マザー・テレサがいなくなると、テレサが始めた活動もなくなっていく ▼3 私たちはみな愛を持っているが、それを与える方法がわからないのかもしれない ▼4 マザー・テレサは、貧しさは努力によって克服できると言った

10～12月

小1 コード： nane パ ス： PDF	小2 コード： nane パ ス： PDF	小3 コード： nane パ ス： PDF
小4 コード： nane パ ス： PDF	小5 コード： nane パ ス： PDF	小6 コード： nane パ ス： PDF
中1 コード： nane パス	中2 コード： nane パス	中3 コード： nane パス

ス： PDF	ス： PDF	ス： PDF
高1 コード： nane パ	高2 コード： nane パ	高3 コード： nane パ
ス： PDF	ス： PDF	ス： PDF